Architectural Institute of Japan

日本建築学会大会学術講演梗概集
（東北） 2009年 8 月

ベトナム山岳少数民族の伝統的集会施設がもつ今日的役割に関する考察
ベトナム中部フエ省の農山村集落・ホンハ社を事例として

正会員　村下　昇平*
正会員　小林　広英**

ベトナム　少数民族　伝統建築
近代化　建物利用

1. 研究の目的

本研究は，ベトナム中部山岳地域に生活する少数民族の伝統的集会施設について，トゥアティエンフエ省アルイ県ホンハ社における現地調査をもとに，その近代化に伴う役割の変容を考察する．

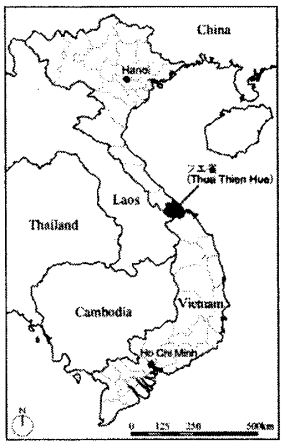

図 1：
トゥアティエンフエ省

2. 伝統的集会施設について

本研究で対象とする「伝統的集会施設」は，ベトナム中部山岳地域における少数民族の間で「ロン」あるいは「グール」等と呼ばれ，一般の家屋と明確に区別される高床式木竹造建築である．これはしばしば集落の中心に位置し，彼らの精神的・物質的生活の中で非常に重要な役割を担ってきた．

ベトナム戦争や市場経済化を経て一時期その数を大幅に減少させていた伝統的集会施設は，近年その文化的価値の認知とともにいくつかの集落で再建されている．これら近年建設された伝統的集会施設は，従来と同じ名で呼ばれていたとしても，その形態や役割については必然的に伝統的なものから大きく変化することになった．

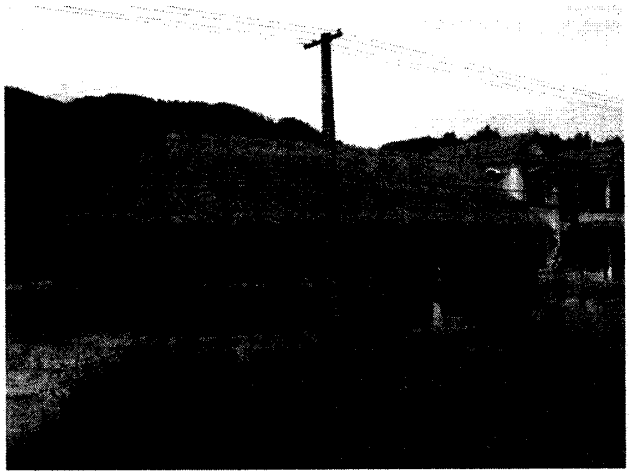

図 2：ホンハ社で再建された伝統的集会施設

3. 伝統的集会施設の従来の役割

現地調査に先立ち，集会施設の従来の役割に関してベトナム中部山岳地域を対象とした民族誌の記述を参考に[1]，伝統的集会施設の従来の役割を「社会的役割」，「社会的役割」および「文化的役割」の三つに整理したのが表 1 である．

表 1：従来の役割

分類	利用目的
社会的	・独身男性が寝泊まりする （→女性の立ち入りは禁じられている） ・村の客をもてなす ・住民の結束を高める
政治的	・長老たちが会合をひらく ・戦争の際の拠点 ・裁判所
文化的	・工芸品を造るための工房 ・共有財産の保管 ・祭事を行うための神聖な空間

4. 調査の概要

本研究では，従来上記のような役割を担ってきた伝統的集会施設の今日的な状況について，トゥアティエンフエ省アルイ県ホンハ社において，2007 年に JICA 支援事業によって再建された集会施設を事例として採り上げ，2008 年 10 月 24 日から 11 月 2 日にかけて現地調査を行った．調査内容は村議長へのインタビューおよび現地住民およそ 30 人へのヒアリングである．

5. 現地調査の結果：今日的な役割

3 章で述べた分類からホンハ社における伝統的集会施設の今日的役割についての調査結果は以下のように整理される．

(a) 社会的役割

ホンハ社全体での年間行事の開催や，ホンハ社への訪問客のもてなしに利用されるほか，外部の組織によって催される農業や教育等に関するセミナー，周辺地域における大規模な工事の竣工式の会場といった目的に貸し出されており，原則として男女関係なくすべての人に対し

Study on contemporary functions of traditional community halls in Central Highlands Vietnam

MURASHITA Shohei, KOBAYASHI Hirohide

NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

てその利用は開かれている.

また，山岳地域でも頻繁に発生する台風や洪水といった災害の際の避難場所としても利用されている.

(b) 政治的役割

政治的役割としては，ホンハ社の役場が何らかの理由で使用できない場合の代替的な会合の場として主に用いられている.

(c) 文化的役割

伝統的な住文化の形態，建設および維持手法を後世に残すという建築そのものの持つ意義の他，伝統的織物や民族音楽の教室といった文化伝承を目的とした利用や，村の共有財産としての工芸品・楽器などを保管し展示するといった住文化以外の伝統文化を継承のする場ともなっている.

表 2：ホンハ社における伝統的集会施設の利用状況

分類	利用目的
社会的	・外部の組織への貸し出し ・村への客のもてなし ・災害の際の物資の保管，避難場所
政治的	・役場の代わりとして一時的に利用
文化的	・「集会施設」という住文化の伝承 ・村全体での行事 ・文化伝承のための教室 ・工芸品・楽器の保管および展示

6. 役割の変容

伝統的集会施設が担ってきた従来の役割と今日的な役割とを比較すると，三つの分類に関して以下の事項が挙げられる.

(a) 社会的役割

従来の伝統的集会施設は女性の立ち入りが厳しく禁じられ，独身男性が生活し情報交換をする場として利用されていたが，現在の集会施設は寝泊まり・生活する場として利用されることはなく，女性の立ち入りも可能となっている.

また，ホンハ社に唯一の多目的集会施設として，あるいはホンハ社という集落のシンボルとしての役割は依然として担っている.

(b) 政治的役割

伝統的集会施設は長老たちが会合を開き，村の運営を担う場所として用いられたが，現在は既に支援事業によるコンクリート製の村役場がその役割を担っている．また，以前存在していた集落どうしの争いもないため，それに関連した役割も現在では消滅している.

(c) 文化的役割

従来存在していたアニミズム的信仰が弱まり，現在では伝統的な祭事が行われることが非常に少なくなっており，これに代わるものとして現代ベトナム国家の年間行事(テト正月祭など)が行われている．これには従来の信仰にもとづく伝統的集会施設の神聖性が薄まり，女性の立ち入りをタブーとしなくなったことも関係があるといってよい.

7. まとめ

以上のような変容の背景には，ベトナム政府による森林利用抑制や，ドイモイ以後の山岳地域での交通・電気等のインフラ整備[2]に伴い，山岳地域における伝統的な住文化・生業が消滅し，平野部の文化・価値観が流入することによって，生活形態に根付いた信仰の根拠が薄まったことや，近代化政策によってベトナムという国家の体制が山岳地域にまで浸透したことなどが挙げられる．したがって，伝統的集会施設が実際的に担う役割は伝統的なものからより近代的なものへと大きく変容することとなった.

このような伝統的集会施設を取り巻く状況の変容の結果，現代における集会施設はより文化的・象徴的な役割を強く担うこととなっている.

【注釈】

[1] 参考文献は以下の通りである.

・Nghiêm Vạn Dặn, Thái Sơn Chu, Hùng Lưu: Ethnic Minorities in Vietnam, The Gioi Publishers, 2000

・Gerald Cannon Hickey: Sons of Mountains, Yale University Press, 1982

・Gerald Cannon Hickey: Shattered World, University of Pennsylvania, 1993

・Robert L. Mole: The Montagnards of South Vietnam, Charles E. Tuttle Company, 1970

・Hùng Lưu: A Contribution to KATU Ethnology, The Gioi Publishers, 2007

・Văn Kự Nguyễn, Hùng Lưu: Rong Community Halls in the Central Highlands of Vietnam, The Gioi Publishers, 2007

・Paul Oliver, Encyclopedia of Vernacular Architecture of the World, Cambridge University Press, 1998

[2]ベトナム戦争後の少数民族政策については以下を参照した.

・森林利用抑制については
新江俊彦: ベトナムの少数民族定住政策史, 風響社, 2007

・ドイモイ以後のインフラ政策については
伊藤正子: 民族という政治, 三元社, 2008

*東京大学大学院工学系研究科 大学院生

**京都大学大学院地球環境学堂 助教・博士(地球環境学)

*Graduate Student, Graduate School of Engineering, the University of Tokyo

**Assistant Prof., Graduate School of Global Environmental Studies, Kyoto Univ., Dr. GES

NII-Electronic Library Service